

～インクルーシブ教育のシステム構築のために、今、通常の学級でできること～

登壇者紹介③
シンポジウム話題提供者
下條満代先生

年が明けて1週間が過ぎました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今号では、シンポジウム第1部 「個別最適な学びの保障を実践例から考える」 話題提供者の下條満代先生をご紹介します。

少子高齢化が進む我が国において、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は増加しています。小・中学校の通常学級においても通級による児童生徒が増加しています。さらに公立学校において日本語指導が必要な児童生徒は約10年間で1.8倍増加するなど、ますます多様になってきています。それに伴い、子どもたちが学校での教育活動にアクセスするための様々な支援が必要になってきています。

特に学習においては、背景、学び方など一人一人ニーズの違う子どもたちに、どのようにして「個別最適な学び」を提供できるかが課題となっています。

2001年、世界保健機構はこれまでの「ICIDH（国際障害分類）」から「障害者が日常・社会生活で受ける制限は、心身の機能の障害のみならず、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものである」という、「ICF（国際生活機能分類）」へと障害の捉えかたを転換しました。

インクルーシブ教育にはICFの障害の捉え方の下、障害を持つ人が他の人と平等に権利や機会を享受できるようにするために、必要な調整や配慮を行う合理的配慮が必要となります。

「学びのユニバーサルデザイン（CAST, 2011）」は、学びへの「障害=障壁」は個人によるものではなく、画一的なカリキュラムにあるという考え方から、従来のような全員一律のカリキュラムの適用を障壁とみなし、すべての学習者の多様性に対応した教育の枠組み（フレームワーク）を提唱しています。

多様な子どもたちが学習にアクセスできるようにするには、カリキュラムを柔軟にし、一人一人に必要な調整や配慮をする必要があります。「学びのユニバーサルデザイン」のフレームワークを用いた柔軟なカリキュラムでの授業は子どもたちの学びへの「障壁」を取り除き誰もが学習にアクセスすることのできる「個別最適な学び」につながるといえます。

LD学会第8回沖縄研究大会では「インクルーシブ教育の構築のために、今、通常の学級でできること」を皆さんと一緒に考えたいと思います。

皆さんのご参加をお待ちしております。

※2月8日（土）の交流会の前には、石隈利紀先生の講演会もごございますのでご案内いたします。（次ページ）

【略歴】

下條満代

琉球大学教育学部 特別支援教育専修 教授
沖縄県立高等学校教諭を経て現職。



日本学校教育相談学会沖縄支部研修

石隈利紀先生講演会のご案内

主催：日本学校教育相談学会沖縄県支部 後援：沖縄県教育委員会

日時：2025年2月8日(土)10:00～12:30【午前の部】

13:30～16:00【午後の部】

※ 午前の部・午後の部は同じ内容です。どちらかを選択して下さい。

場所：那覇文化芸術劇場なは一と3階（大スタジオ）

（那覇市久茂地3-26-27）

講演テーマ：

「師匠アラン・カウフマン博士、師匠のメンター
デイビッド・ウェクスラー博士から引き継ぐ、
子どもの教育相談のためのアセスメント」

参加費：一般 2,000円

LD学会会員 1,500円

LD学会会員は500円引きになります。



石隈 利紀 先生

（東京成徳大学 特任教授）

日本版WISC、K-ABC開発者
「改訂生徒指導提要」作成委員
「チーム学校」提唱者

※ 講師紹介（[裏面参照](#)）

※ 会費は当日会場にて現金でお支払い下さい。
（LD学会会員用の受付を設けております。）

※ 会場に駐車場はございません。
なるべく公共交通機関をご利用下さい。
※ 受付は、満席になり次第、終了いたします。
お早めにお申し込みください。

【お問い合わせ】

日本学校教育相談学会沖縄県支部

事務局 照屋 勝矢

E-mail kyousou.okinawa@gmail.com



[お申込はこちら](#)

【講演テーマ】

「師匠アラン・カウフマン博士、師匠のメンター
デイビッド・ウェクスラー博士から引き継ぐ、
子どもの教育相談のためのアセスメント」

【講師紹介】 東京成徳大学特任教授・筑波大学

名誉教授 石隈利紀

- ・日本スクールカウンセリング推進協議会理事・前理事長
- ・日本公認心理師協会副会長
- ・学校心理士認定運営機構理事長
- ・日本LD学会名誉会員、SENS名誉会員

石隈先生は、カウフマン博士夫妻の下で、スクールサイ
コロジストとしての厳しい訓練を受け、学校心理学で博士
号を獲得されました。カウフマン
先生の高弟の一人と言われ、日本
版WISC-VやKABC-IIの開発者の一人
です。



カウフマン博士夫妻

ウェクスラー先生は、心身ともに
傷ついたアメリカの復員兵を援助す
るためにアセスメントツールとして、自腹で約2,000名を
対象として標準化を行いウェクスラー・ベルビュー検査を
開発しました。カウフマン先生は、マイノリティの子ども
たち（LD児やアフリカ系やヒスパニック系アメリカ人など）
が不利になりにくい知能検査を開発しました。

お二人がめざしたのは、苦戦している人のために役立つ
ツールの開発でした。カウフマン先生の「予測をくつがえ
す（Kill the prediction!）」という賢いアセスメントか
ら一人ひとりの子どものための教育相談や特別支援教育に
向かう考え方について、一緒に学びましょう。